

第2回 壬生中学校 学校運営協議会 会議録

令和4年9月9日（金） 15:30～16:25 図書室

<開始 15:30>

1 協議

(1) 校則の見直しについて

- A氏 校則の見直しを行うには、ジェンダーの問題を同時に考える必要がある。男子の制服、女子の制服という表現をどうするか考える必要がある。校則と制服を一緒に考えるよい機会。
- B氏 男だから、女だから、というのは難しい。保護者の多岐にわたる意見をまとめるのは難しい。
- C氏 校則を一回見直して終わりではなく、生徒が定期的に議論する仕組みづくりが大切。
- D氏 生徒主体で見直すことは、自分たちで作ったルールに対する責任が大きくなるということ。責任を学ぶよい機会。多岐にわたる意見がありまとめるのはたいへんだが、声をあげる機会を設けることで「話を聞いてもらえた安心感」が生まれるだろう。一人一人の主体性を育てるよい機会。仮に、「眉毛は剃ってはいけません。」というルールをつくると、「ならば、入学前に剃ってしまおう」という発想が生まれるかもしれない。ルールに込める思いを共有したい。
- E氏 旧壬生中と稲葉中が統合して現在の壬生中が誕生して42年。「師弟同行」「創業守成」を創立以来の大切な精神として受け継いできた。ホームページには生徒と先生と一緒に校則見直しの議論をしている写真が掲載されているが、まさに師弟同行。ホームページの写真も、「生徒のそばに先生がいる」という、師弟同行のよい写真。
校則の土台は、人権教育と人間尊重の精神。人として認め合うということ。校則の見直しを行う際は、バックボーンである人権教育や人間尊重の精神をおくとよい。
- 校長 現在の校則は、開校以来の長い歴史の中で、脈々とまとめられてきたもの。生徒会による見直しの議論は難航した。その見直し過程で行き着いたところが、学校教育目標を柱にして校則を議論しようと言うこと。「知・徳・体」でまとまっている学校教育目標を柱に、各規定を議論していこうということになった。

(2) 制服の見直しについて

- A氏 スラックスかスカートか、どちらでもよいとなれば、選択肢があるという安心感が生まれるだろう。
- B氏 セーラー服型のスラックスの場合、かがんだときにシャツが出てしまうことがあるらしい。股上は深めのづくりがよい。
- C氏 スラックス以外の防寒対応もあるとよい。
- D氏 価格の問題もある。数年後にはリサイクルできるような仕組みがつかれるとよい。
- E氏 制服問題は、機能面を大切にすることがある。詰襟学生服やセーラー服は機能面で難しい面がある（詰襟は首が苦しい。セーラー服はスカーフが巻き込まれる可能性もある）。重ね着ができて脱着が容易なものを今後検討できるとよい。

<終了 16:20>